

平成 29 年度 神戸大学海外インターンシッププログラム

ニコラウス・コペルニクス大学言語学部日本学科

就業実習報告書

法学研究科 理論法学専攻1年

1. インターンシップ概要

◆派遣国・都市

ポーランド・トルン

◆派遣先

ニコラウス・コペルニクス大学 言語学部日本学科

◆派遣期間

2018 年 2 月 19 日～3 月 17 日

◆研修内容

- ・大学の教師(計 4 人)の授業の補佐 (TA)
- ・個人担当授業の計画と実施

◆目的

- ・海外の日本語教育の現場で、日本語・日本事情の教育補助を通して異文化理解を深めるため
- ・海外でのインターンシップを通じて、知見を広めスキルアップするため

2. 研修内容

◆受け入れ先大学教員の授業補佐

コペルニクス大学には、ポーランド人教師と日本人教師がいるが、私は日本人教師 4 人の授業補佐を行った。

ペアワークやディスカッションに参加したり、会話の見本を務めたりして、授業の補助をした。

◆個人担当の授業 以下の学年と日時で、授業計画を作成して実施した。

1 年生 3 月 15 日 4 限(日本の地方ごとの違い)

2 年生 3 月 15 日 2 限(福島の震災、エネルギー問題)

3 年生 3 月 7 日 4 限(福島の震災、エネルギー問題)、3 月 14 日 4 限(就職活動)

修士 1 年生 3 月 7 日 3 限(福島の震災、エネルギー問題)、3 月 14 日 3 限(就職活動)

修士 2 年生 2 月 28 日 5 限 (福島の震災)

学年によって内容、難易度を変更して授業を行った。例えば、「福島の震災」をテーマとした授業は、学部 2 年生は日本語の能力がまだ不十分であるため時折英語も交えながら、写真を見せて被災、津波の状況を伝えることに重きを置いた。学部 3 年生には、事前課題を出し、日本とポーランドのエネルギー事情の違いについて調べてきてもらい、私のプレゼンテーションの中でその知識を問うことで参加してもらい、最終的にはポーランドに原発を建設することに対し賛否を考えてもらった。修士 1 年生には、ポーランド国民が原発建設に賛成か反対か、その背景にはどんなことがあるのかについて、2 名の学生に予め準備して、発表してもらった。修士 2 年生にはディスカッションの時間を多く確保し、自分の考えをその場で日本語で話してもらった。

また、テーマの設定は、各学年に第一回目の授業で希望を確認したうえ、担当の先生と相談して、学生が興味を持つような内容で、かつ私だから伝えられることを選定した。

学生が主体的に取り組んでもらうため、授業中に発言する機会を設けたり、ペアワークを導入したり、事前の課題を出したり、一方的な講義にならないよう気を付けた。

◆スピーチコンテストのサポート

第 39 回日本語弁論大会に出場する 3 名の学生に対して、原稿の添削、スピーチの練習、質疑応答で想定される質問の検討、当日の引率をしてサポートした。学生らはそれぞれの「好きなもの」をテーマとして発表したが、ストーリーだけでなく皆へのメッセージがしっかり伝わるように心がけて指導した。

3. 感想

私は教育学の知識がなく、教壇に立って授業をすることも初めてであったが、受入担当の先生が特に指示をせず好きなようにやって良いという自由度の高いスタイルであったため、主体的に行動する能力が身につき、度胸も据わった。

日本学科の学生たちが勉強熱心で協力的であったおかげで、私が一方的に教えるだけでなく、ポーランド人と日本人の考え方や風習の違いなど新たな発見もあり、充実した授業になったと思う。

外国人の学生たちから直接、原発に対する意見を聞くことができたのは、貴重な機会であった。私は福島県出身で東日本大震災により被災しており、現在は法学研究科で原発訴訟およびエネルギーに関する国内外の法的諸問題につき研究している。地震の心配がなく、まだ原発が一つもない、日本から遠く離れた国の学生たちの考え方は興味深く、もともと、関心を持って真剣に考えてくれたことが非常に嬉しかった。

振り返ってみると 1 か月間の実習はあっという間であったが、授業に関わった学生、先生たちだけでなく、同じ寮に住んでいた研究者たち、先生が紹介して下さった社会人の方々をはじめ、ポーランドで出会った親切な方たちのおかげで、研修をやり遂げることができた。お世話になった方々に深く感謝したい。

